

21 

MUSEUM CRUISE DOCUMENT 2024

MUSEUM
CRUISE
DOCUMENT
2024



ミュージアム・クルーズ
記録集

もくじ

- p.01 はじめに
- p.02 「ミュージアム・クルーズ」とは？
- p.04 1日の流れ
- p.06 「ミュージアム・クルーズ」のツール
- p.07 作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」について
- p.10 久野彩子アーティスト・トーク
- p.12 参加児童アンケート「まるびいへお手紙を書こう！」より
- p.14 学校関係者との取り組み
- p.15 検討委員より
- p.16 学校関係者アンケートより
- p.18 コレクション展

付録：2024年度「ミュージアム・クルーズ」ポスター



(表紙) 舟越 桂 左:〈支えられた記憶〉 右:〈支えられた記憶〉のためのドローイング 2001

はじめに

出会いの旅

「ミュージアム・クルーズ」へようこそ！

美術館を船で旅するように見て回る「ミュージアム・クルーズ」。子どもたちは旅の仲間「クルーズ・クルー」と一緒に美術館を自由に楽しめます。旅の途中には展示されている様々なコレクション作品が子どもたちを待ち受けています。「すごい！」「〇〇に似ている」「なんだか怖い」「これはこういう意味なのでは…」子どもたちの反応は実に多彩です。

中には「何だこれ？」と首をかしげるような作品もあるでしょう。そんな時には子どもたちを見守るクルーズ・クルーが優しく話しかけます。「何だと思う？」「何が見える？」「ちょっと違う角度から見てみようか」子どもたちと会話をしながら同じ視点で作品を鑑賞します。

ガイドマップも旅の必需品です。中を開くと館内の地図とともに、作品鑑賞のヒントとなる問いかけが書かれています。子どもたちは同じグループの仲間と地図を見ながら移動し、問いかけを手がかりに作品について話し合います。

今年度、当館は開館20周年を迎え、展示室以外の交流ゾーンも含めた大規模なコレクション展が1年を通して開催されました。丸い構造の館内を時に迷いながらも、同じグループの仲間と相談したりクルーズ・クルーに聞いたりしながら作品の展示場所まで辿り着き、安堵の表情を浮かべる子どもたちの姿が特に印象的でした。

この記録集と付録のポスターには、2024年度の「ミュージアム・クルーズ」の様子がまとめられています。子どもたちや学校関係者、クルーズ・クルーが本プログラムにどのように関わり、何を感じたのか、活動の軌跡をお楽しみください。

「3つの出会い」が子どもたちを待っています

まるびい

「まるびい」とは「まるいびじゅつかん」である金沢21世紀美術館の愛称です。来館中、子どもたちはユニークな建築空間を体感します。

現代アート

「コレクション展」や美術館に合わせて作られた「コミッションワーク」など、同時代の様々な作品に触れます。

クルーズ・クルー

「旅の仲間」の意味を持つ多世代の作品鑑賞プログラム・メンバーです。子どもたちが安全に活動できるように一緒に過ごします。

「ミュージアム・クルーズ」とは？



概要

金沢21世紀美術館は、活動の指針のひとつに「子どもたちとともに、成長する美術館」を掲げています。その一環として2004年の開館時に「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」を実施し、金沢市内の小中学生全学年約4万人が美術館を訪れました。この経験を活かし、2006年より金沢市内の小学4年生を学校ごとに美術館へ招待するプログラム「ミュージアム・クルーズ」を継続して行っています。「ミュージアム・クルーズ」は、子どもたちが少人数のグループでコレクション展を鑑賞し、美術館を散策することで、感じる心を養い、地元の美術館に慣れ親しむ機会を形成します。金沢市教育委員会や作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」などの協力のもと、「金沢で生まれ育った子どもはみな、大人になる前に美術館に行ったことがある」という社会環境をつくります。



目的

美術館における作品鑑賞を通じて“感じる心”を養う

- ・ 金沢21世紀美術館とコレクションを身近に感じ、大切に思う心を育てる
- ・ 世界のアーティストの様々な発想と表現に五感と身体全体で出会い、触れ合うことによって感受性、創造性、自主性、思考力、表現力を育てる
- ・ 色々な感じ方、見方、考え方、表現の仕方があることを知り、他の人の気持ちや考えを思いやる想像力とコミュニケーション力を育てる
- ・ アート(美術)が、世界の状況、社会の動き、情報、科学、文学、音楽、ダンス、演劇、人と人との関係や毎日の暮らしに深い関係をもっていることを知り、幅広い視野で学ぼうとする意欲や態度を育てる
- ・ 公共の空間でマナーを守りながら自由に楽しむ力を育てる

美術館における“子どもの鑑賞活動”を継続的に実施する

- ・ 美術館と学校による協力関係の継続・強化
- ・ 美術館における体験と、学校における授業との有機的な連携の推進

2024年度 年間スケジュール、美術館の動き

2024年						2025年					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		会場事前視察		会場事前視察		会場事前視察				来年度の日程通知	
学校の動き		第1回検討会	前期 学校来館 7月2日・9月27日	第2回検討会			後期 学校来館 11月6日・1月15日			来年度の参加打診	来年度の日程通知 第3回検討会
クルーズ・クルーの活動		ボランティア合同説明会&事前研修	クルーサロン①		クルーサロン②	追加募集説明会・研修		久野彩子アーティスト・トーク クルーズ・クルー解散式			
美術館の動き		6月22日-9月29日 「コレクション展1」		10月12日-1月19日 「コレクション展2 都市漂流」							
		6月22日・6月30日 教職員対象 展覧会無料招待ウィーク①		11月9日・11月17日 教職員対象 展覧会無料招待ウィーク②		1月4日・1月14日 金沢市小中学校合同展		2月1日・2月9日 教職員対象 展覧会無料招待ウィーク③			

2024年度データ

期間：前期 2024年7月2日(火) - 9月27日(金)
後期 2024年11月6日(水) - 2025年1月15日(水)
のべ52日間実施
参加：金沢市内の小学校と特別支援学校59校
内訳) 前期「コレクション展1」鑑賞…22日間・27校
後期「コレクション展2 都市漂流」鑑賞…30日間・32校
参加：4,002名(児童3,782名+引率220名)
クルーズ・クルー：64名

主催：金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]
共催：金沢市教育委員会
助成：金沢ライオンズクラブ



1日の流れ

午前	午後
9:15	12:45
	クルーズ・クルー集合、打ち合わせ
	来館する学校の情報や当日の館内の状況を共有 役割分担や自分が担う場所の確認 作品を子どもと楽しく見るには？といった鑑賞のポイントの相談
↓	↓
9:40	13:10
	子どもたち到着・挨拶
	広場にてスタッフと合流 入館後、クルーと集合場所へ移動し、荷物預かり はじめの挨拶で館内の約束や集合時間、地震が発生した場合の行動などを確認し、チケットを配布
↓	↓
10:00	13:30
	鑑賞の時間
	子どもたちは3-4名のグループでコレクション展を鑑賞 クルーズ・クルーは各展示室で子どもたちを見守る 子どもたちはガイドマップやクルーの問いかけで考えを深める
↓	↓



10:45	14:15
	探検の時間
	子どもたちはグループで交流ゾーンや広場を探検 クルーズ・クルーは館内各所で子どもたちを見守る
↓	↓
11:30	15:00
	子どもたち再集合、挨拶
	集合場所に再集合 子どもたちの感想発表、「もう1回券」の紹介
↓	↓
11:40	15:10
	出発
	荷物を取って出発
↓	↓
11:45	15:15
	クルーズ・クルー振り返り
	その日の活動を振り返り、気がついたことを共有
↓	↓
12:00	15:30
	クルーズ・クルー解散



「ミュージアム・クルーズ」のツール

学校や美術館、家庭でも活動についての理解を深められるようにツールを制作しています。

ガイドマップ

活動範囲やマナーの確認ができるほか、作品を鑑賞するヒントとして利用できます。

折りたたんで小学4年生の手やポケットにも収まりやすいサイズ(9.1cm×12.8cm)で制作されています。



「コレクション展1」 デザイン：内田優花(マツダオフィス)



「コレクション展2 都市漂流」 デザイン：川久保ミオ

活用例

- 学 校で 事前指導や来館後の振り返り
- 美術館で ミュージアム・クルーズ活動中の現在地の確認や意見交換
- 家 庭で ミュージアム・クルーズの紹介や振り返り

掲載内容：プログラム紹介、館内での約束、館内地図、作品写真やデータ、鑑賞を促す一言、探検の時間のオススメ、もう1回券、開催予定の展覧会紹介

映像

子どもたちに美術館での活動内容や魅力を伝え、引率者が事前指導に役立てられるよう、2種類の映像を制作しています。

チャプター1 「まるびいへようこそ！ミュージアム・クルーズにご招待」 (3:43)



URL: <https://vimeo.com/831395525/7d2cb46c99>



チャプター2 「見るってじつはおく深い!？」 (2:20)



URL: <https://vimeo.com/831396078/086e88cf03>



制作：金沢21世紀美術館 デザイン・編集：オフィスプランカ

作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」について

概要

「クルーズ・クルー」は美術館を訪れる子どもたちと作品を鑑賞し、美術館体験をサポートします。解説のためのボランティアではなく、旅の仲間として子どもたち同士の対話を促し、安全を見守ります。

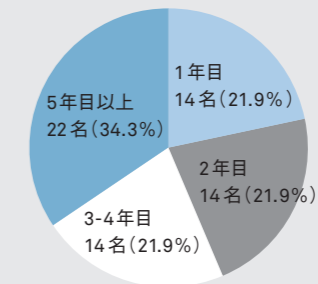
応募条件：

- 20歳以上の方
- 説明会と事前研修に全て参加できる方
- 月2回程度、子どもたちとの活動に参加できる方
- ※無償での活動です。

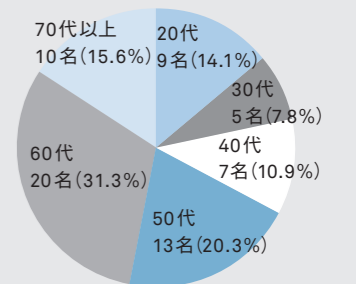
今年度のクルーズ・クルー：

参加人数は64名、男女比は2:8

参加年数



年代



説明会

プログラムの概要や活動の内容について理解を深めます。(約30分)



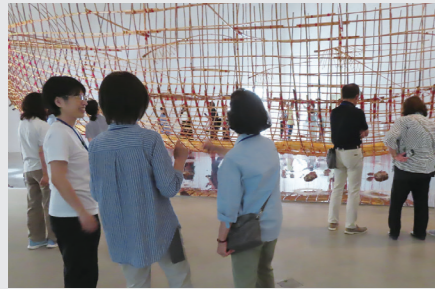
事前研修① 活動場所チェックツアー&ロールプレイング

活動場所、1日の流れ、役割の確認を通じて、活動のイメージをふくらませます。(約150分)



事前研修② コレクション展鑑賞&意見交換

コレクション展を1人で見る、他の人と話しながらか見る、クルーズ・クルー目線で見ることを通じて得た気づきを共有し、子どもたちとの鑑賞の時間に生かします。(約150分)



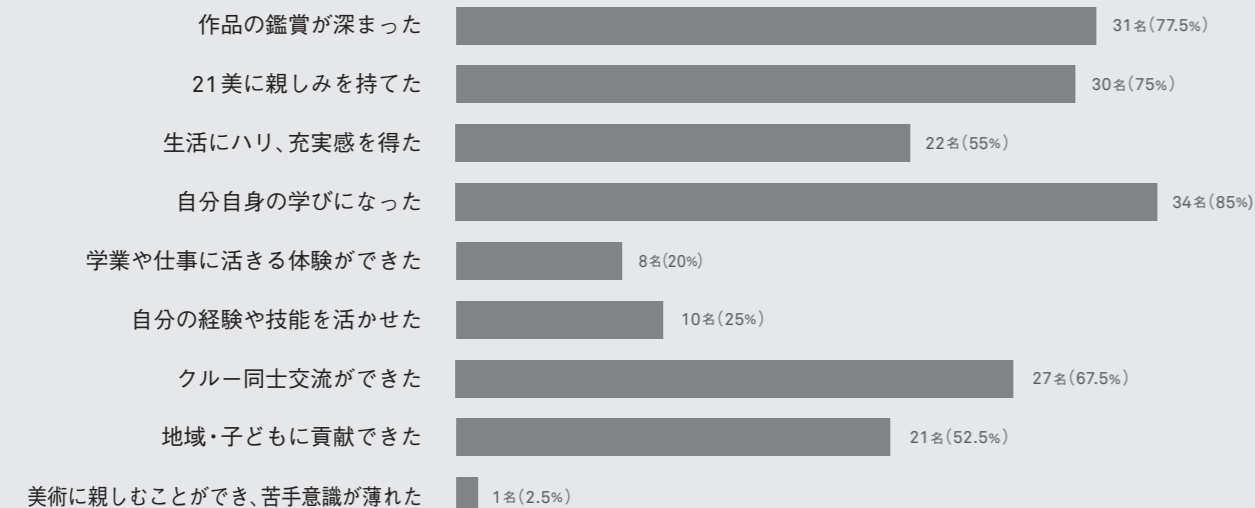
解散式

他のクルーやスタッフと交流しながら1年間の活動を振り返ります。(約75分)



クルーズ・クルー アンケート より (40名回答、原文一部掲載)

Q.1 クルーズ・クルーとして活動に参加して感じたことがあれば教えてください(複数回答可)



Q.2 今年度のクルーズに参加して、よかったことやあなた自身の変化はありましたか?

- ・能登地震で元気がなかった石川県、半年の21美休館、と思ったより何をしていても気分が沈みがちな自分、という状況の中スタートしましたが、クルーさんや美術館のみなさん、知ってる顔にまた出逢えたこと、この場に帰って来られたことに、自分でもびっくりするくらいに力をもらえていました。当たり前前の日常が輝く場のひとつとして、美術館が自分の毎日の潤いになっていたことを改めて実感しました。(40代女性・3-4年目)
- ・小学4年生に向けてクルーズがあって、クルーズには地域のいろいろな方が参加していて、地域に開かれている美術館だ

とっていなかったもので、びっくりしました。クルーの方もさまざまな年代の人が生き生きとされていて、私もこんな風になりたいと感じました。(20代女性・1年目)

- ・子どもたちやボランティアの方、職員の方と話をすることによって、自分が生きてきた社会とは違う発想に触れることができ、成長することができたと思う。(60代男性・2年目)
- ・遠くに感じてた21世紀美術館でしたが、街の公園に行くように数回通っているうち、とても近くに感じることができました。(40代女性・1年目)

Q.3 子どもたちとの活動中に行った工夫や印象に残ったこと、今後への提案があれば教えてください。

- ・とにかく受け止める!話しすぎない!やりすぎない!を心がけ、最初に「まずはじっくり鑑賞してあとでまた話そう」と子どもたちが何をどこからどんな風に見たいのかできるだけお任せするようにしました。(40代女性・5年目以上)
- ・子どもたちの質問には、答えを返すのではなく「どう思う?一緒に考えてみない?」と返してみました。調べれば何でも分かる時代なので「子どもたちの考える練習になればいい」と思い、そうしました。(30代女性・2年目)
- ・自分は何回も観たことがある作品、よく知っている美術館、ですが、毎回毎回新たな感覚でいたいなど。子どもたちと一緒に

楽しむ、同じ目線で楽しむ、気持ちでいたいなどいつも思っています。(40代女性・3-4年目)

- ・威圧感を感じさせないよう、話しかける口調を柔らかく、また、怖い表情にならないよう気を付けた。(60代男性・2年目)
- ・できるだけ作品の詳しい説明をせずに、先入観を持たずに見てもらおうように心がけました。その方が自分で気がついたことをたくさん話してくれるような気がします。(50代女性・5年目以上)
- ・18歳、19歳でも参加できるようにしてほしいのと、交通費や駐車場代だけでも出してもらえるともう少し学生も参加しやすいと思いました。(20代女性・1年目)

Q.4 来年度も活動を継続したいと思いますか?

参加したい

- ・美術館、子どもたち、他のクルーさんたちとのつながりを続けたいので。(60代女性・5年目以上)
- ・子どもたちや仲間から新しい発想や刺激をもらえるから。(60代女性・5年目以上)
- ・続けると、前より経験が増えて、見える世界が変わってくると思うからです。(30代女性・2年目)
- ・子どもたちと美術館を繋げるという体験がとても楽しく、ま

たやってみたいと思ったから。(20代女性・1年目)

- ・子どもたちや他の方々と接することで、心の若さが維持できると思うからである。また、よく歩き回るので肉体の健康にも資すると思うからでもある。(60代男性・2年目)
- ・ライフワークの一部になってますよ。(60代男性・2年目)

参加したいが難しい

- ・就職するため、時間的に難しいから。(20代女性・1年目)

久野彩子アーティスト・トーク

2025年1月15日(水) 14:30-16:00
於:レクチャーホール

活動最終日に収蔵作家の久野彩子氏を招き、プログラムの見学とアーティスト・トークを開催した。(Fig.1)

ここでは「コレクション展2 都市漂流」で出展された《skyline-TOKYO-》にまつわる内容を中心に採録する。

はじめに

午前中に「ミュージアム・クルーズ」を初めて拝見しました。(Fig.2) 小学4年生が飽きずに作品を見ていて、クルーズ・クルーの皆さんの目の配り方が自然で、ナイスアシストな感じ。一般のお客さんとも調和がとれているというか、空間に馴染んでいて、素敵な環境というか、素晴らしかったです。自分は作家として作ったものが置かれている状態を見ることはあまりないのですが、今日は感想を言う子どもたちと自然体でそれを引き出してくれるクルーさんたち、そして一般の方々の反応など、ありがたいなぁと思いながら見ていました。

金属との出会い

私はずっと東京に住んでいて、鋳物で作品を作っています。小学校の通学路に鉄工所があって、光が溶接でバーッと散る様子を見るのが好きでした。大学ではインテリアデザインが学べるコースに進み、その中で体験として金工、木工、インダストリアルデザインを選択したのですが、幼少期の思い出もあり、「金属は硬くて重いものだけれど、意外に柔らかい。ドロドロの液体になったものを型に入れて冷やすと固まる事象の面白さが魅力」だと思っていました。実際に手を動かして自分が何かを作り出すことがやりたいと思い、金工を選びました。

「都市」を創作テーマに選んでいるのは、人間が作り出した建物などの人工物の方が自然物よりも自分の身近にあって、カッコいいと思ってきたからです。私は金属もカッコいい素材だと思っていて、すごく簡単に言うと、自分がカッコいいと思っているものを表したいと思ったら、「金属で建物をイメージして作ってみたい」と思いました。

《skyline-TOKYO-》

これは東京オリンピックを予定していた前の年、2019年の作品です。選手村など、建設中の建物が多かった時期の東京を切り出せたらと思い、レインボーブリッジを歩いて渡り、写真が撮れる真ん中のスペースから東京の街を見ました。東京



Fig.1



Fig.2

タワーやスカイツリー、お台場のフジテレビ社屋など、特徴的な建造物を入れつつ、「普遍的な都市とは？」ということも考えながら作りました。建物と水の情景が素敵だなと思ったので、作品の影が水面に見えるようにしました。

鋳物もいろいろな技法がありますが、私は蠟原型を作って、その型の周りを固めて金属を流し込み、中の金属を取り出して加工し、仕上げています。展示中の作品はジュエリー用の技法を使っていて、1回に鋳造できる最大サイズが5x10cmです。それが何十パーツもあって、(Fig.3) 金属になった後に「ロウ付け」という方法でパーツを繋ぎ合わせ、ある程度の長さにして壁に展示してもらい、1本の線になります。よく見ると継ぎ目が見えるかもしれませんが。長すぎると自重で曲がってしまうので、あれぐらいが形態としてギリギリ保てる形でしょうか。

私は平面的にもものを見る癖があります。例えば窓はシルエットを組み合わせて、レイヤーを重ねる感じで作ることが多いです。立体の良さは影だと思っているので、そこは意識しています。光の当て方によって作品の印象が変わるので、今回は美術館の方がすごくこだわって照明を作ってくれたと思っています。クルーさんから「今回はスカイツリーの影がない」と言われたり、



Fig.3 蠟原型の制作風景(作家提供)

4年生が「太陽がないから、影が変わってもいいんじゃないか」と言っていたエピソードも聞いたりして、新たな発見がありました。

職人魂と作家性

鋳物の特徴は同じものを何個も複製できるのがいいところですが、でも私は複雑な形を1点蠟で作って全部割って取り出します。金属は溶けているとはいえドロドロしているので、目的地まで流れていないと最初からやり直し。その絶望感がありつつも、金属なのに自由な形態が作れるその魅力の方が私には勝っている。そして見る人に重さを感じさせたくありません。「湯道」という金属が流れる道を作品じゃないところにたくさんつけるのですが、それは業者に適切な場所を判断して鋳造してもらっています。自分で鋳造もやっていたので、ここまでやるとダメだとか失敗しそうとか、そういうのは経験値としてあります。プロの技を持つ職人さんに鋳造しにくい形を送りつつ、「大丈夫です」と言える形を意識して作っているの、「ギリギリを攻めたい」と思っています。

金属で都市を創る

私は作りたい形を作りたいから作っています。「これが完璧」と思って蠟原型を出したところで、上がってくるものがちょっとイマイチだったり、欠けていることもあります。鍛金や彫金は全部自分の責任で形を作れますが、鋳造は金属に触

れている時間が仕上げの時だけで短く、自分の手から離れているため、突き放して作品を見る時間が多い。

私の作品は出来上がっていくのか、それとも朽ちていっているのか、見る人によっていろいろ言われますが、どちらでもいいと思っています。都市は常に「スクラップアンドビルド」、新しいものができたり古いものが壊されたり、私はずっと動き続けている街が好きなのかもしれません。変化していくことを悪いと思っていないのが、作品に現れているとも言えます。街中にある銅像や仏像など、鋳物は完成されて存在感があるものが多いですね。私はそれを打ち崩したいとは言わないけれど、そうじゃないのがあっていいのでは、と思っています。

(構成・文 吉備久美子)

※金沢21世紀美術館ポッドキャスト番組「21Hz」にて、アフタートークの模様を「久野彩子さんと話してみた」(ep89&90)と題して配信中。



<https://open.spotify.com/show/4J6Vgsq034UET3rSTkId0L>

久野彩子 KUNO Ayako

1983年東京都(日本)生まれ、同地在住。主にロストワックス鋳造技法(失蠟法)を用いて金工作品を制作するアーティスト。様態を変えながら増殖し、構築されていく都市のうごめく姿を想起させる久野の作品は、重厚な金属の質感と共に、細部にまで技巧を凝らした表現も併せ持つ。

参加児童アンケート 「まるびいへお手紙を書こう！」より

57校3,461名回答

Q.1 「ミュージアム・クルーズ」の中で、心に残ったものは何ですか？それはなぜですか？

子どもたちの心に残った作品の感想を一部紹介します。

島袋道浩《浮くもの／沈むもの》

- ・おもたそうな物がういていたり、軽そうな物がしずんでいたりして、ふしぎだったから、心にのこりました。
- ・見た目は同じでも中身がちがうところが面白かった。
- ・おなじ野菜なのに沈むものと浮くものがあるって私もやってみたいと思ったからです。



佐々木 類《植物の記憶／Subtle Intimacy 2012-2023》

- ・はじめは葉だったのに、いろいろなものにみえておもしろかったです。
- ・かんそうした植物にガラスをはさんでまるで光ってるように見えてきれいでした。
- ・植物がとじこめられているように見えてすごいと思ったし、たくさんの植物があつてきれいでいろいろな想ぞうができそうだったからです。



宇治野宗輝《プライウッド新地》

- ・色々な音になって自転車がおどるなんてそうぞうもしていなかったからびっくりしました。生活の物もはいていたからすごいな～と思いました。
- ・物と物が合体していろんな動きがあったからです。例えば楽器とせんぶうきが合体して音も動きもすごかったです。



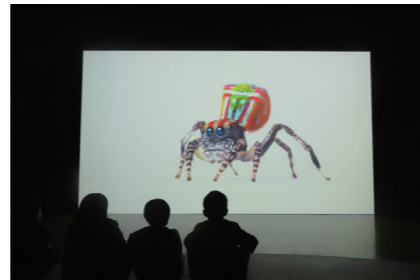
カールステン・ヘラー《金沢の自動ドア》

- ・ドアをとおっていくと知らない人とばったりドアであってびっくりして知らない人もわらっていたのでとてもたのしかったので心に残りました。
- ・出口が見えなくてどこまでもつづいているようでおもしろかったです。毎回通るたびにわくわくします。

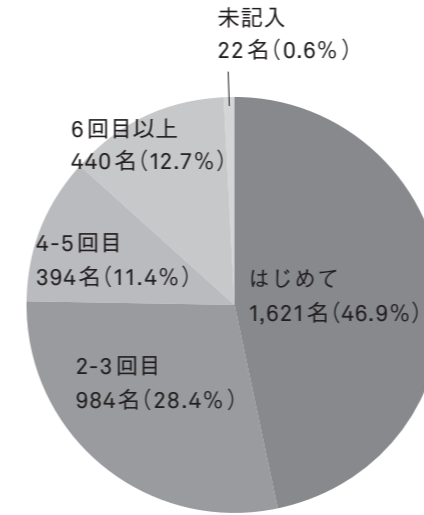


マリア・フェルナンダ・カルドーズ《芸術の起源について I-II》

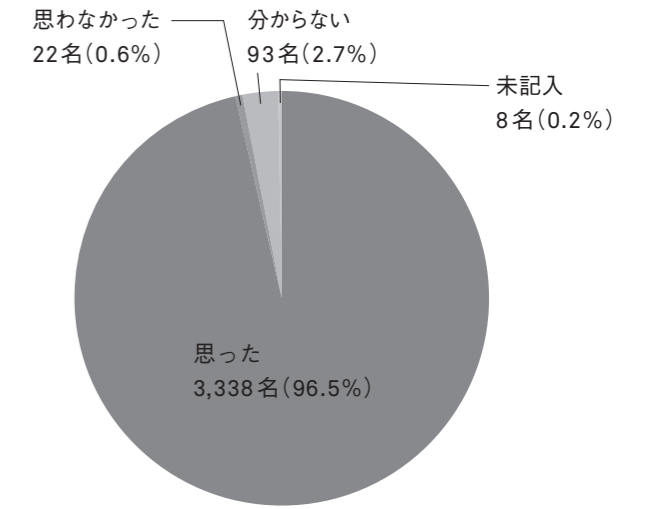
- ・ふだんは耳にすることのできないとても小さな音を、台にのって体全体で聞きとることができたからです。
- ・今まで美術館は見るものっていうイメージだったから、体で感じるものもあるんだっておどろいたからです。



Q.2 “まるびい”へ来たのは何回目ですか？



Q.3 また“まるびい”へ来たいと思いませんか？



お手紙に描かれたイラストを一部紹介します。



学校関係者との取り組み

子どもたちの安全かつ有意義な美術館活動を実現するため、ふたつの取り組みを行っている。



検討会

金沢市教育委員会推薦の教諭3名の検討委員と美術館の担当スタッフが、プログラムの内容の検討・監修を年3回行っている。

主な検討内容

- ・ガイドマップ
- ・会場事前視察
- ・学校での事前、当日、事後の取り組み
- ・来館中の対応など



会場事前視察

引率予定の教職員と担当スタッフが活動の流れに沿って会場を下見する(約55分)。

主な内容

- ・学校での事前準備について(映像のURL案内とガイドマップの配布)
- ・当日の流れの確認
- ・集合場所や活動場所の確認
- ・コレクション展の鑑賞と感想交換体験
- ・地震発生時の対応
- ・学校別の打合せ(希望校のみ)など

検討委員より

成長する子どもたち

笠原奈保実(金沢市立小坂小学校 教諭)



学校の外を飛び出して、何が始まるのだろうとワクワク感がつまった美術館。これは何?と興味そそられる現代アート、そして親でも先生でもない大人のクルーさん。この3つの出会いが子

多様な見方を学ぶ

坂本永里賀(金沢市立米丸小学校 教諭)



ミュージアム・クルーズの事前指導の際、本校の4年生に金沢21世紀美術館に作品を見に行ったことがあるか聞いてみたところ、ほとんどの児童が「金沢21世紀美術館の存在は知っているが、作品を見に行ったことはない」と答えた。作品に

「あの作品のここに!」「この場所に〇〇があった!」

松浦潤治(金沢市立三和小学校 教諭)



ミュージアム・クルーズ参加後の児童からは、大人が見つけれなかった「発見」を教わった。今回初めて検討会に参加させていただいたことで、その発見には「多くの人の支え」があることを知った。

どもたちを変えていったと感じた。普段見られない生き生きした子どもたちの姿がたくさんみられて嬉しくなった。

クルーさんは作品を解説しない。ほどよい距離で「何が見える?」「感じたことは?」と子どもたちの考えや思いを引き出してくれる。「同じ考えの人はいる?」など子ども同士をつなぐお助けもしてくれる。自分とは違う見方や考え方があるのだと知ることができる。「鑑賞の時間」にゲットした視点で「探検の時間」には五感と身体全体で作品を味わっていた。

たくさんのアートにふれ、想像し、自分の考えを持つ力、相手に思いを伝える力、人と自分の意見が違うことに気づき認め合う力、親でもない先生でもない大人とのコミュニケーションをとる力、このクルーズでたくさんの力を子どもたちは成長させることができたと思う。

触れる機会が少ない本校の4年生にとって、このミュージアム・クルーズは本物を間近で鑑賞する貴重な機会になると感じ、ガイドマップを見ながら想像を膨らませて当日を迎えた。クルーズ・クルーや友達と互いの見方や感じ方を交流しながら鑑賞を楽しんでいる様子がたくさん見られ、児童は自然な形で交流し、新たな発見を楽しんでいた。事後の振り返りの時間では、「写真で見ると実際に見るとでは感じ方が違った。」「体験できる作品もあり、また見に行きたい。」と多くの児童が話し、体験の大切さを実感した。

デジタル化が進み、必要な情報を効率よく得ることができる現代の子どもたちにとって、本物の作品の良さに触れてじっくりと鑑賞ができるこの時間はとても貴重なものになったのではないかと考える。このミュージアム・クルーズで学んだ多様な見方や考え方・本物の良さは、今後きっと彼らの人生のどこかで生きてくるのではないだろうか。

検討会の中で、すべての作者や作品についての解説があった。これが児童に感じとってほしいものだと考えたが、実際に伝えられたことは「『自分らしい』感覚を大切にしてほしい」「『自由』に感じてほしい」という「まるびい」のみなさんの思いだった。クルーズ当日は、どの児童も離れたり近づいたりどき込んだりしながら、自分らしく作品と対することができていた。

さらに、児童の言葉に傾聴し、受容し、共感するというクルーズ・クルーの接し方も大きな支えだと感じた。いつでも話ができるように近くに寄り添ってもらえたり、思いを引き出すような声かけをしてもらえたりしたことで、児童は自由に感じたことを言葉にすることができていた。

このように、多くの人の支えによって「自分の感覚を大切にでき」「感じたことを表現できる」時間だからこそ、参加後の児童には大人をも驚かせる数多くの「発見」が生まれるのだろう。

学校関係者アンケートより

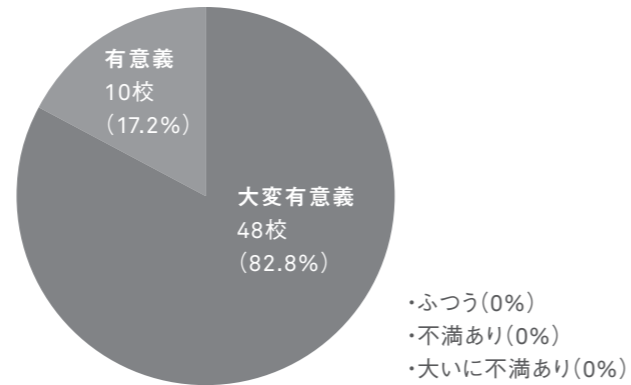
58校回答

Q.1 今年度の「ミュージアム・クルーズ」に参加して、いかがでしたか？

理由(抜粋)

[大変有意義]

- ・「ミュージアム・クルーズにご招待」の動画を事前に見せた日から、子どもたちは当日を心待ちにしていました。当日の朝やバスでも、「どんな作品が見れるかな」「まるびいに行くの楽しみ」ととてもわくわくしていました。館内では、子どもたちが夢中になって作品を見る姿やたくさんの笑顔を見ることができました。クルーズ・クルーの方と子どもたちがお話しする様子も多々見ることができました。子どもたちは学校に帰った後も、作品を見て感じたことやクルーズ・クルーの方から教えて頂いたこと、クルーズ・クルーの方がとても優しくしたこと等をたくさんお話ししていました。「今日のミュージアム・クルーズのことを早くお家の人に話したい」「またまるびいに行きたい」とたくさんの子どもが言っており、子どもたちにとって楽しく、学びの多いとても有意義な時間になったと思います。
- ・帰りのバスの中でも、美術館で見た作品について子どもたちからたくさん話題が上がっており、教師も気づかないような細かいところまで



品を見ている様子だった。「本当に楽しかった。」という声が多く聞かれ、子どもたちの表情もいつもに見られない笑顔が溢れていた。お手紙を書く時のスピードや文章量から見ても、本当に充実した時間を過ごせていたことが分かりました。いつにない主体的な姿が見られており、とても良かったと感じた。

[有意義]

- ・作品を見ていると子どもたちから「これなんやろう」「ふしぎ」といった考えている様子の言葉が自然と出てきていたり、バスや学校に帰ってから感想を聞くと楽しかったと言う子ばかりで、また行きたいと言っていた。

理由(抜粋)

[事前視察]

- ・子どもたちがどのように活動するのか、教師自身の見通しを持つことができた。
- ・事前に頂いた資料がとても詳しく書かれていたため、教員の共通理解がしっかりできました。

[クルーズ紹介動画]

- ・具体的にどこどこに着目してどんな見方をしたらよいかのかわかりやすく説明されていたため、子どもたちにも「見方」が伝わったと思います。

- ・(特別支援学校より) 触ってしまいたくなる子がいる中、「見る」が焦点化されており、事前学習として取り扱いやすかったです。

[ガイドマップ]

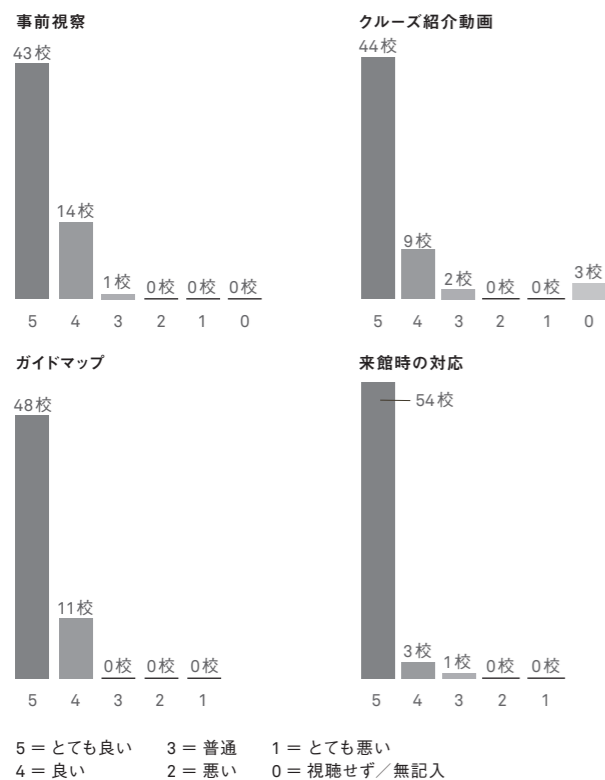
- ・ガイドマップの色分けがとてもわかりやすかった。鑑賞の時間と探検の時間に行ってもよい場所を色分けしたり、星マークがあったりでわかりやすかった。

- ・ガイドマップにもう1回券がついて、子どもたちがとても喜んでいました。

[来館時の対応]

- ・午前の参加は、前日に約束などを指導することになるが、直前にもわかりやすい説明をしていただけてありがたかった。

Q.2 事前視察・クルーズ紹介動画・ガイドマップ・来館時の対応について ※複数回答あり



Q.3-1 来館時の時間の設け方 ※複数回答あり



期待すること、目標やねらい、めあてなど

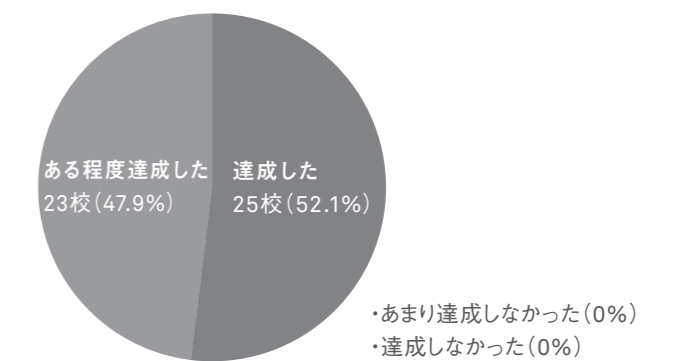
[授業:図工として]

- ・美術作品の鑑賞を通して、友達やクルーさんといろいろな考えを交流する。
- ・ひとつの見方ではなく、様々な見方や考え方を働かせながら作品の魅力を考える。
- ・①鑑賞のルールを守る②作品から感じたこと、気づいたことを言葉にしよう③クルーさんと話そう。
- ・公共施設の使い方に気をつけ、現代アートを楽しもう。
- ・美術館での楽しみ方やマナーについて事前学習を行い、金沢21世紀美術館にあるたくさんの美術作品に触れ、楽しみながら心を豊かにすることをねらいとして設定しました。
- ・「感じる心」というテーマから、作品を見て自分が感じたことや疑問に思ったことを必ずクルーさんに伝えてくるという目標を設定した。
- ・色・形・材料・向き・距離など様々な視点で作品を見ること、見て感じたことを伝え合うこと。

Q.4 プログラム継続の上での提案や要望など

- ・お忙しい中、事前視察や当日、丁寧な対応をして頂きありがとうございます。特に、写真撮影不可の児童に対して、当日スムーズに対応して頂くことができ、助かりました。
- ・突然の体調不良の児童に対応してくださってありがとうございました。とても助かりました。
- ・(特別支援学校より) 美術館にさらに興味をもつように、ミッションを入れてもおもしろいと思いました。(〇〇をさがす等)
- ・(特別支援学校より) 今回子どもたちのアンケートは手書きで郵送ということでしたが、次回から教職員同様フォームで回答させてもらえたら助かります。

Q.3-2 期待すること、目標やねらい、めあてなどの達成度合い



[授業:その他]

- ・ルールを守って好きな作品を見つけよう。
- ・作品からどんなことが感じられるか。(作った人の思いなど)
- ・事前に館内での鑑賞の約束について確認した。また何よりも「多くの作品にふれて鑑賞時間を思いっきり楽しむ」ことをねらいとした。

[行事として]

- ・公共の施設の見学をし、社会性をはぐくむ。
- ・3つの出会いを大切に、班で行動しよう。[具体的にはあいさつ、時間を守る、思いやり(施設のマナーを守る)など]
- ・作品の鑑賞を通して、多様な世界観を体感する。
- ・事前打ち合わせで頂いたねらいを子どもたちと共有しました。

- ・探検の時間のほうを少し長く設定してもよいかと思う。もっといろいろしてみたかった子もいた。
- ・展示内容によるかもしれませんが、丁寧に鑑賞していた子たちは若干時間が足りなかったようです。あと5分~10分程度あっても良いかなと感じました。
- ・クルーズ・クルーさんが中心に進めてくれる今のやり方がよいと思います。こどもたちの捉え方や感じ方を大切にしてくださいとお願いしたいです。鑑賞と探検の時間ももう少しよい位だと思います。ありがとうございました。

コレクション展1

会期：2024年6月22日(土) - 9月29日(日)

会場：展示室1、2、2前通路、3、4、5、6、13、長期インスタレーションルーム、デザインギャラリー、プロジェクト工房

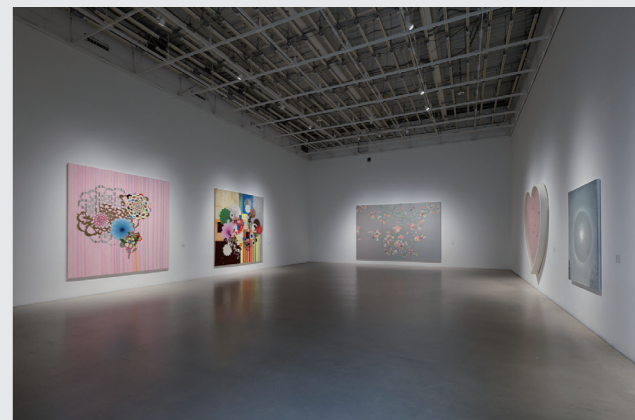
出品リスト

※特に表記のないものは金沢21世紀美術館所蔵

展示室1	木村太陽 Friction / トイレはどこですか? 2005 時計、マスキングテープ H108 × W178 × D3cm	山村慎哉 work 2000-2 2000 漆、卵殻 / 木 H4.2 × W7.5 × D4.9cm	展示室4	―	
―			ベアトリス・ミリャーゼス 伝説 2002 アクリル / カンヴァス H160 × W149.5cm	―	
展示期間 2024/6/22(土) - 8/12(月・祝)				島袋道浩 浮くもの / 沈むもの 2008 野菜、果物、水、水槽、鉄の台、流水システム サイズ可变 [水槽:H60×W90×D45cm (2個)、鉄の台:H100×W90×D45cm (2台)]	3つのパートからなる コンピュータ処理されたプリント H195 × W306cm、H169 × W306cm (2点組)
清水 晃 色盲検査表 No.10 1963 油彩、コラージュ / カンヴァス H167.2 × W134.3cm	木村太陽 Feel Your Gravity 2005 雑誌 H30 × W23 × D0.8cm (8点)	山村慎哉 work 2001-1 2001 漆、乾漆粉、夜光貝 / 木 H8.1 × W4.2 × D4.2cm	ベアトリス・ミリャーゼス 青い家 2001 アクリル / カンヴァス H280 × W270cm	―	ガブリエル・オロスコ 焼けたノート 1996 コラージュ、コンピュータ・プリント、7つの焦げ跡 H27.9 × W21.6cm
山崎つる子 作品 1964 ビニール塗料 / カンヴァス H182.5 × W97.5cm	木村太陽 Life's An Ocean/Dead Finks Don't Talk 2007 ジッパー、布地、マネキン サイズ可变	山村慎哉 work 2001-2 2001 漆、鹿毛 / 木 H8.5 × W6.5 × D2cm	ベアトリス・ミリャーゼス 黒い力 2003-2004 アクリル / カンヴァス H300 × W300cm	展示室6	ガブリエル・オロスコ 缶の生け垣 1998 チバクローム・プリント H40.6 × W50.8cm
山崎つる子 作品 1963 ビニール塗料 / カンヴァス H183 × W92cm	展示室2前通路	山村慎哉 work 2001-6 2001 漆、乾漆粉、真鍮線、金平目粉 / アルミニウム H9.8 × W5.1 × D2.2cm	村上 隆 コスモス 1998 アクリル / カンヴァス、板 H300 × W450cm (3枚パネル)	―	ガブリエル・オロスコ ベンスキー・プロジェクト1 1998 チバクローム・プリント H40.6 × W50.8cm
展示期間 2024/8/14(水) - 9/29(日)	―			ザイ・クーニン ダブンタ・ヒャン:知識の伝播 2016-2017 ミクス・メディア(ラタン、蜜蝋、天然樹脂、糸、本、サウンド等) サイズ可变(船:H500×W1900cm、ステンレスシートの床面積:約65㎡)	ガブリエル・オロスコ ベンスキー・プロジェクト2:穴のあいた三角形 1998 チバクローム・プリント H40.6 × W50.8cm
山崎つる子 Work 2004 染料、クリアラッカー、 ビニールシンナー / プリキ H86.5 × W101cm	カールステン・ヘラー 金沢の自動ドア 2004 ミクス・メディア H230 × W256 × D1500cm	寺井直次 富貴草蒔絵平棗 1981 漆、卵殻 / 木 H6 × φ8.5cm	アンディ・ウォーホル ダイヤモンド・ダスト・シューズ 1980-1981 ポリマー塗料、シルクスクリーンインク、ダイヤ モンドダスト / カンヴァス H228.6 × W177.8cm	展示室13	ガブリエル・オロスコ かっつてのステンドグラス窓 2000 チバクローム・プリント H40.6 × W50.8cm
山崎つる子 Work 2004 染料、クリアラッカー、 ビニールシンナー / プリキ H86.5 × W101cm	展示室3	「雲龍庵」北村辰夫 更紗蒔絵十字架 2007 漆、金、貝 / 木 H13 × W9.5 × D4.2cm	デミアン・ハースト 無題 2000 蝶、光沢ペイント / カンヴァス H213.4 × W213.4cm	―	ガブリエル・オロスコ 無題 2000 グラファイト、水彩 / コンピュータ・グラフィック H30.5 × W21.3cm
山崎つる子 Work 2004 染料、クリアラッカー、 ビニールシンナー / プリキ H86.5 × W101cm	山村慎哉 work 1998-1 1998 漆、金線、紅琥珀 / 木 H10.8 × W4.3 × D2.2cm	「雲龍庵」北村辰夫 蜃蒔絵聖卵 2010 漆、麻布、金、銀、貝 / 木、イエローゴールド H7.5 × W8.8 × D6.7cm (本体: H6.8 × W8.7 × D6.8cm)	リュック・タイマンス 二重の太陽 2006 油彩 / カンヴァス H168 × W142cm	展示室5	ガブリエル・オロスコ 無題 2000 インク、グラファイト / 紙 H31.8 × W23.8cm
展示室2	山村慎哉 work 1998-2 1998 漆、卵殻、真鍮線 / 木 H12.3 × W5.9 × D2cm	展示期間 2024/8/14(水) - 9/29(日)	ゲルハルト・リヒター アブストラクト・ペインティング (CR 845-8) 1997 油彩 / アルディボンド板 H100 × W90cm	―	ガブリエル・オロスコ 怖れるな 2001 グラファイト、インク / 紙 H30.5 × W23cm
―		舟越 桂 支えられた記憶 2001 クスノキ、大理石 H109 × W64 × D35cm	ゲルハルト・リヒター アブストラクト・ペインティング (CR 845-5) 1997 油彩 / アルディボンド板 H100 × W90cm	展示室4	ガブリエル・オロスコ カタガミ・プリント1 2001 アクリル / 紙 H33 × W24cm
木村太陽 Untitled 1997-2004 牛乳パック、紙粘土人形 H25 × W7 × D7cm (44点)	山村慎哉 work 1998-3 1998 漆、夜光貝、真鍮、金板金、木 H18.7 × W2.2 × D3.2cm	舟越 桂 《支えられた記憶》のためのドロワーイング 2001 鉛筆 / 紙 H116.8 × W89.7cm		展示室13	ガブリエル・オロスコ アートミスト:ダブルスタンプ 1996
木村太陽 はたらけ はたらけ 2005 ミクス・メディア H30 × W40 × D16cm (4点)	山村慎哉 work 2000-1 2000 漆、鉄粉、夜光貝 / 木 H22.8 × W3.4 × D1.6cm				



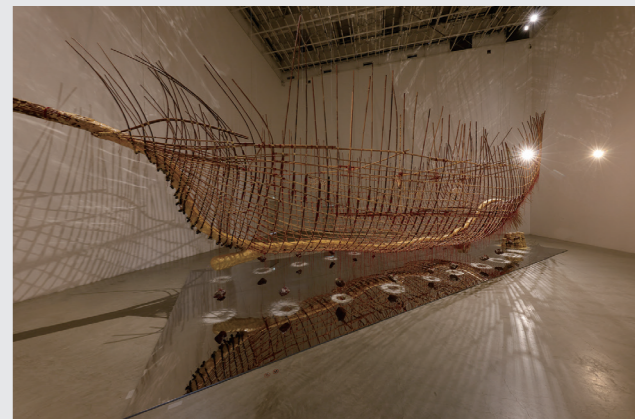
コレクション展1：展示室2



コレクション展1：展示室4



コレクション展1：展示室5



コレクション展1：展示室6

ガブリエル・オロスコ
カタガミ・プリント2
2001
アクリル / 紙
H33 × W24cm

長期インスタレーションルーム



コレクション展1：展示室13

ガブリエル・オロスコ
カタガミ・プリント3
2001
アクリル / 紙
H33 × W24cm

佐々木 類
植物の記憶 / Subtle Intimacy 2012-2023
2023
ガラス、植物、LED、アルミ
H253.5 × W310 × D332cm

ガブリエル・オロスコ
カタガミ・プリント4
2001
アクリル / 紙
H33 × W24cm

佐々木 類
Reminiscences of the Garden -from Jacob Knapp-
2022-2023
ガラス、植物(ポर्टランド日本庭園にて庭師とともに採取)、LED
H51 × W201 × D1.2cm (frame 65.2 × 213 × 6cm)
作家蔵



コレクション展1：長期インスタレーションルーム

ガブリエル・オロスコ
カタガミ・プリント5
2001
アクリル / 紙
H33 × W24cm

佐々木 類
Reminiscences of the Garden -from Jacob Knapp-
2022-2023
ガラス、植物(ポर्टランド日本庭園にて庭師とともに採取)、LED
H121.5 × W48 × D0.6cm (frame 135 × 59 × 5cm)
個人蔵

ガブリエル・オロスコ
カタガミ・プリント6
2001
アクリル / 紙
H33 × W24cm

デザインギャラリー



コレクション展1：デザインギャラリー

ガブリエル・オロスコ
カタガミ・プリント7
2001
アクリル / 紙
H33 × W24cm

SUPERFLEX
発酵作用
2016
ミクスト・メディア
サイズ可変

ガブリエル・オロスコ
東京の雨
2001
チバクローム・プリント
H40.6 × W50.8cm

プロジェクト工房



コレクション展1：プロジェクト工房

ガブリエル・オロスコ
椅子の中の犬
2001
チバクローム・プリント
H40.6 × W50.8cm

藤浩志
Happy Paradies (ハッピーパラダイズ)
2015
ミクスト・メディア
サイズ可変

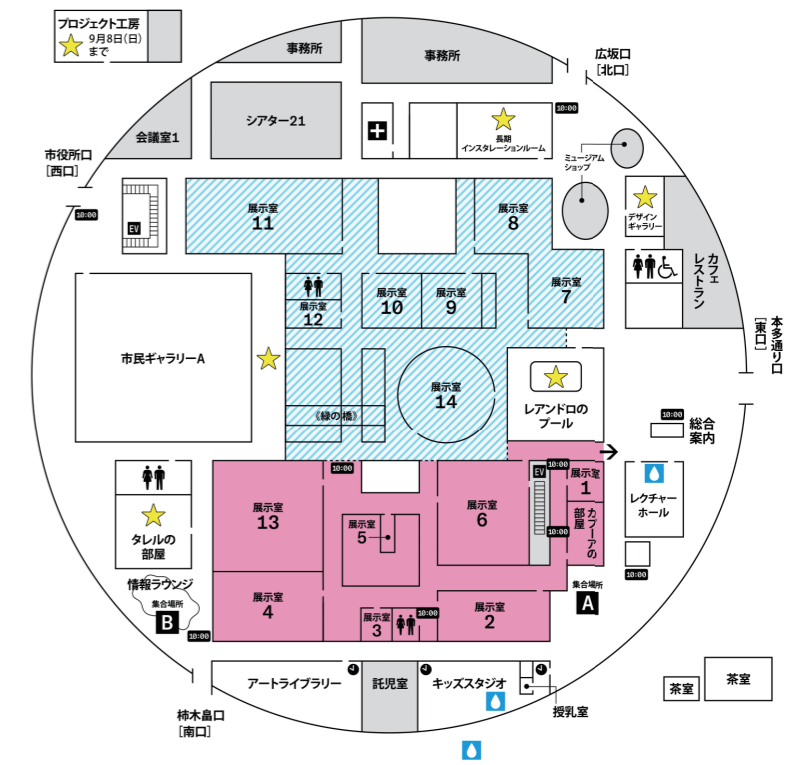
ガブリエル・オロスコ
転がされたインク
2001
アクリル / 紙
H33 × W24cm

ガブリエル・オロスコ
スターのキャップ
2001
チバクローム・プリント
H40.6 × W50.8cm

Photo: KIOKU Keizo

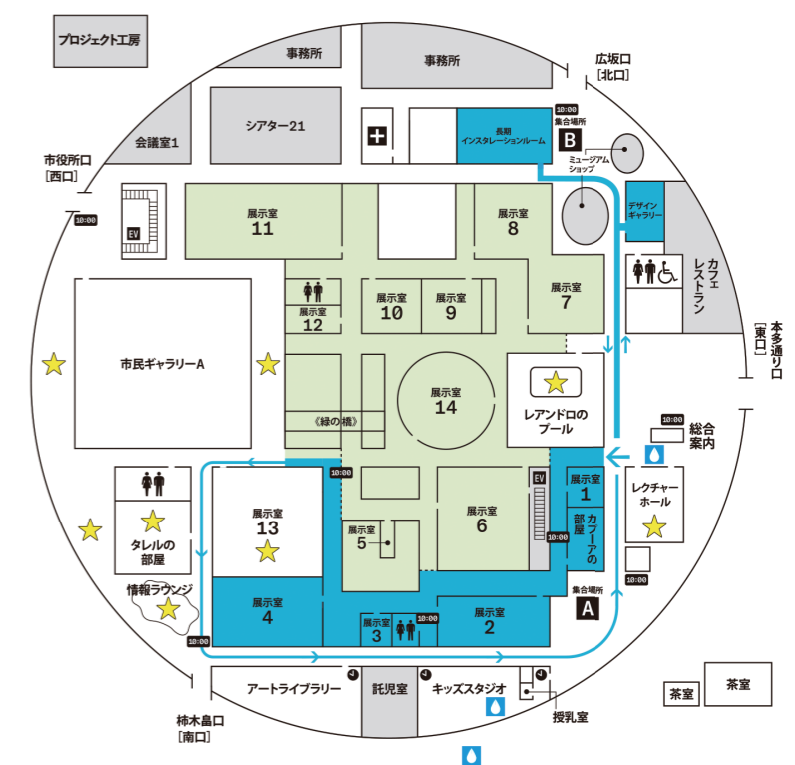
「コレクション展1」展覧会マップ

- 展示室 1
清水晃
山崎つる子
- 展示室 2
木村太陽
- 展示室 2 前通路
カールステン・ヘラー
- 展示室 3
山村慎哉
寺井直次
「雲龍庵」北村辰夫
舟越 桂
- 展示室 4
ベアトリス・ミリャーゼス
村上 隆
アンディ・ウオーホル
デミアン・ハースト
リュック・タイムンス
ゲルハルト・リヒター
- 展示室 5
鳥袋道浩
- 展示室 6
ザイ・クーニン
- 展示室 13
ガブリエル・オロスコ
- 長期インスタレーションルーム
佐々木 類
- デザインギャラリー
SUPERFLEX
- プロジェクト工房
藤 浩志



「コレクション展2 都市漂流」展覧会マップ

- 展示室 1
Chim ↑ Pom
- 展示室 2
陳 維
久野彩子
マヤ・バイエヴィッチ
イザ・ゲンツケン
- 展示室 2 前通路
カールステン・ヘラー
- 展示室 3
金氏徹平
宮永愛子
- 展示室 4、展示室 3-4の間
宇治野宗輝
- 長期インスタレーションルーム
クリス・バーデン
- デザインギャラリー
曾根 裕
アトリエ・ワン



コレクション展2 都市漂流

会期：2024年10月12日(土) - 2025年1月19日(日)

会場：展示室1、2、2前通路、3、4、長期インスタレーションルーム、デザインギャラリー

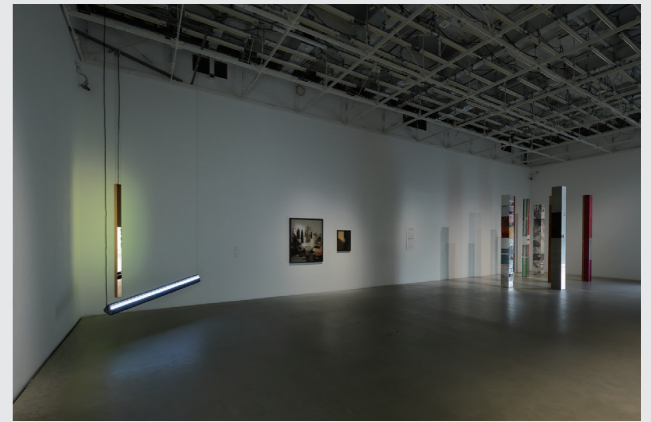
出品リスト

※特に表記のないものは金沢21世紀美術館所蔵

展示室1	展示室2
—	—
展示期間 2024/10/12(土) - 12/1(日)	陳 維 道端のマレーヴィチ 2016 LEDスクリーン、スチール H16×W202×D16cm
Chim ↑ Pom SUPER RAT (Showcase) 2011-2012 ビデオ3点、ミクスト・メディア サイズ可変(映像3点:2分22秒、2分28秒、3分)	陳 維 前代未聞の自由 2016 LEDスクリーン、チタンステンレス H214×W8.4×D7.8cm
展示期間 2024/12/3(火) - 2025/1/19(日)	陳 維 鍵の束 2011 アーカイバル・インクジェット・プリント H60×W45
ジャンン・ダグデレン ホームライク II 2005 白黒写真、パライタ紙 / アルミニウム H200×W116cm	陳 維 ところにより雨 2010 アーカイバル・インクジェット・プリント H120×W100
ホンマタカシ 東京郊外 少女-1、湘南国際村、神奈川 1995 発色現像方式印画 H125×W100cm	陳 維 久野彩子 skyline-TOKYO- 2019 アルミ青銅、ブロンズ H15×W496×D4.5cm
ホンマタカシ 東京郊外 新浦安、千葉 1998 発色現像方式印画 H100×W125cm	マヤ・バイエヴィッチ 働く女性たち-建設中 1999 ビデオ 11分48秒
ホンマタカシ M / ニテロイ 2000 / 2010 シルクスクリーン H72.3×W102.6cm	イザ・ゲンツケン ビル 2000 木、金属、アルミ箔 H320×W24×D20cm
ホンマタカシ M / ニテロイ 2000 / 2010 シルクスクリーン H70×W40cm	イザ・ゲンツケン ローレンス 2000 大理石、木 H305×W31×D31cm
ホンマタカシ M / ニテロイ 2000 / 2010 シルクスクリーン H63×W47.8cm	イザ・ゲンツケン レームブルック 2000 木、金属、アルミ箔、ポストカード H320×W20×D18cm
シスレイ・ジャファ ストック・エクスチェンジ 2000 ビデオ 3分1秒	イザ・ゲンツケン カローラ 2000 木、金属、銅、ガラス、アルミ箔 H315×W24×D28cm

イザ・ゲンツケン ダニエル 2000 木、ガラス H280×W27×D27cm	イザ・ゲンツケン クリストファー 1998 木、金属、ガラス、写真 H321×W29×D27cm
イザ・ゲンツケン 無題 1999 木、鏡、石膏、写真、彩色 H300×W24×D20cm	イザ・ゲンツケン 紙にコーヒーの染みの切り抜きをコラージュ H11×W143×D147cm
展示室2前通路 —	カールステン・ヘラー 金沢の自動ドア 2004 ミクスト・メディア H230×W256×D1500cm
展示室3 —	金氏徹平 Endless, Nameless #1 2014 ファウンド・オブジェ、木製パネル H122×W244×D4cm
展示期間 2024/10/12(土) - 12/1(日)	金氏徹平 Games, Dance and the Constructions (Soft Toys) #12 2015 スクリーンプリント、綿布、ポリエステル製詰め物、アクリルボックス H90×W130×D5cm
展示期間 2024/12/3(火) - 2025/1/19(日)	宮永愛子 waiting for awakening -chair- 2012 ナフタリン、樹脂、ミクスト・メディア H110×W67.9×D55.8cm

展示室4 —	宇治野宗輝 プライウッド新地 2017 ミクスト・メディア (MIDIシーケンサー、輸送用木箱、家電機器、楽器、カメラ、プロジェクター、モニター、映像) サイズ可変(タイム・シーケンス 15分40秒)
展示室3、4の間 —	宇治野宗輝 プライウッド・シティ・ストーリーズ2 2018 ビデオ 8分36秒
展示室3、4の間 —	宇治野宗輝 プライウッド・シティ・ストーリーズ3 2018 ビデオ 9分38秒
長期インスタレーションルーム —	クリス・バーデン メトロポリス 2004 ミクスト・メディア H217×W496×D333cm
デザインギャラリー —	曾根 裕 ホンコン・アイランド / チャイニーズ 1998 大理石 H65×W108.5×D67cm
展示室3、4の間 —	曾根 裕 2階建てジャングル 1999 大理石 H30×W38.5×D34.3cm
展示室3、4の間 —	曾根 裕 スカルプチャー・ガーデン・ウィズ・ガーデナー 1999 リネン装丁本(カラーインクジェットプリント 61枚) H18.4×W25.4×D1.8cm



コレクション展2：展示室2



コレクション展2：展示室4



コレクション展2：長期インスタレーションルーム



コレクション展2：デザインギャラリー

2024年度

金沢市内小学4年生全児童招待プログラム

「ミュージアム・クルーズ」

—

主催：金沢21世紀美術館〔公益財団法人金沢芸術創造財団〕

共催：金沢市教育委員会

助成：金沢ライオンズクラブ

検討委員：笠原奈保実、坂本永里賀、松浦潤治

（金沢市立小学校教諭3名、50音順）

—

金沢21世紀美術館 スタッフ：

〔ミュージアム・クルーズ担当〕 矢野佑輔、吉備久美子

〔展覧会担当〕 コレクション展1：立松由美子、梅谷彩香

コレクション展2：杭亦舒、梅谷彩香

〔プログラム・アシスタント〕 奥田はる香、佐々木修吾、滝野澤風花、門馬冬音

〔インターンシップ研修生〕 渡邊太喜（金沢美術工芸大学大学院）

クルーズ・クルー（64名 50音順）

岩井一平、岩垣 豊、鷲沢一子、大石睦子、大辻尚美、大友孝志、柿田陽子、角田奈七子、柏谷水月、亀井泰世、稻場瑠美、川島幸子、川端一美、喜多久恵、北村拓海、及能淳一、小々高久美子、小室正子、近藤素子、坂口芽依、桜井美幸、嶋 美紀、嶋本雅美、鈴木大介、高井ひとみ、高岡幸子、高木寿美子、高須咲子、高橋友香、竹林あおい、多長桂子、田中理湖、田畑伊津子、柄田亜希代、

塚本浩子、土肥真奈美、逸水宏子、飛田莉那、富田洋子、豊蔵健夫、永井和幸、中尾智子、長岡る美子、中嶋大介、中戸恭子、中浜 淳、中村幸音、名竹さゆり、西野文子、橋本和栄、長谷川菜央、濱野年美、平尾初美、古本晶子、前演典子、樹谷 彰、松田伊佐枝、松本収子、美甘絵理、向井淳子、村井淑子、山川博子、山本悦子、和田伸子

金沢21世紀美術館サスティンメンバー

金沢エナジー株式会社
ベルナルドジャパン株式会社
株式会社かゆう堂
株式会社山田写真製版所
森平舞台機構株式会社富山出張所
株式会社バルデザイングループ
株式会社あまつぼ
株式会社とむろ
ホクモウ株式会社
金沢ターミナル開発株式会社
前田印刷株式会社
株式会社インプレス美術事業部
カナカン株式会社
シシクアドクライス株式会社
株式会社 大和
株式会社銀治商店
ArtShop 月映
OMOG 金沢片町 by 星野リゾート
株式会社ユニークポジション
アイバブリッキング株式会社
株式会社道洋行
能登印刷株式会社
林橋舎アップルカンパニー
ペにや無何有
合同会社 脂 みつ川
株式会社ビー・エム北陸
ケンブリッジフィルターコーポレーション株式会社
株式会社橋本清文堂

金沢商工会議所
一般社団法人石川県鉄工機電協会
株式会社計画情報研究所
株式会社うつのみや
金沢市一般廃棄物事業協同組合
日機装株式会社
株式会社竹中工務店北陸営業所
坪田 聡
石川県勤労者文化協会
公益社団法人金沢市医師会
河野 陽子
株式会社コネル金沢
ヨシダ印刷株式会社
株式会社アイ・オー・データ機器
一般社団法人石川県繊維協会
株式会社金沢環境サービス公社
辻商事株式会社
アムズ株式会社
連合石川かなざわ地域協議会
株式会社金太
北陸スカイテック株式会社
ヨシダ道路企業株式会社
横河電機株式会社金沢事業所
株式会社橋本確文堂
株式会社日本海コンサルタント
高桑美術印刷株式会社
株式会社浅田屋
北菱電機株式会社

株式会社甘納豆かわむら
アズビル株式会社
末広フーズ株式会社
株式会社四緑園
株式会社ホクスイ
有限会社芙蓉クリーンサービス
株式会社北都組
石川県中小企業団体中央会
株式会社中島商店
北陸名鉄開発株式会社
日本海警備保障株式会社
株式会社金沢舞台
大村印刷株式会社
株式会社ほくつう
横浜エレベータ株式会社
丸文通商株式会社
株式会社五井建築研究所
石川県ビルメンテナンス協同組合
株式会社グッドフェローズ
イワタニセントラル北陸株式会社
株式会社グランゼーラ
株式会社ゲイルロズスタジオ
河本 睦美
安 然
ナカダ株式会社
株式会社福光屋
株式会社ヤギコーポレーション
一般社団法人金沢建設業協会

アルスコンサルティング株式会社
一般社団法人 MuU
株式会社総合園芸
金沢信用金庫
有限会社大島石材
林 裕太
医療法人社団しま矯正歯科
SANAA 事務所
金沢市農業協同組合
ヨシダ宣伝株式会社
西日本電信電話株式会社北陸支店
株式会社北國銀行
ニッコー株式会社
医療法人社団 健真会 耳鼻咽喉科安田医院
株式会社メープルハウス
株式会社マイブックサービス
公益財団法人金沢勤労者福祉サービスセンター
株式会社浦建築研究所
金沢中央農業協同組合
協同組合金沢問屋センター
三谷産業株式会社
スーパーファクトリー
株式会社エイブルコンピュータ
(2025年2月末現在)



ミュージアム・クルーズ記録集 2024
MUSEUM CRUISE DOCUMENT 2024

—

編 集：矢野佑輔・吉備久美子（金沢21世紀美術館）
編集補：奥田はる香、滝野澤風花
デザイン：原田祐馬・西野亮介（UMA/design farm）、田中千晶

—

発行日：2025年3月31日
発行：金沢21世紀美術館〔公益財団法人金沢芸術創造財団〕
〒920-8509 石川県金沢市広坂1-2-1

—

禁無断転載
No part of this document may be reproduced in any form or by any means.

©2025 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa
All rights reserved.
ISBN 978-4-910864-12-9